連載

“三方よし”の職場づくり

職員よし、組織よし、地域よし

熊本県人吉市経済部長●溝口尚也

本連載は「自治体改善マネジメント研究会」のメンバーが執筆しています。同研究会は自治体で改善運動を推進してきた職員と行政経営デザイナー元吉由紀子が共同で設立。実践事例情報を収集、分析し、ナレッジ化して情報発信している。2017年にNPO法人化。ホームページ、Facebook「自治体改善の輪」を運営。

第45回

被災地で結実したインフォーマルとフォーマルのつながり

被災地で芽生えたつながり

2005年に参加した「公務員の組織風土改革世話人交流会」。その時受けた衝撃から異業種を含め様々な場に参加するようになった。それらインフォーマルなつながりは、やがて本業の中でも活かせるようになる。

一見業務外のムダのようだが、インフォーマルで多様な立場を持つことは、異質な物事にも抵抗なく、選択の幅、色んな要素をつなげる「余白（のりしろ）」を自分の中に広げていく。それが、今回の自然災害による緊急時に、思いがけず復旧復興支援の縁を幾つも生むことになった。

人吉市が壊滅的被害を受けた昨年7月の豪雨災害。当時私はなりわい再建や仮設商店街などの事業者支援に取り組む一方で、公平を重んじる公助による支援に限界も感じていた。

そんな時に様々なご縁から、公共の視点を持ち経済的にも独立して被災地支援する複数の団体とつながることができた。通常の組織では彼らと協働する部署はない取組みも、インフォーマルな場の経験により、多くを可能にした。

例えば、被災者に車を無料貸出する団体とは、窓口を行政の罹災証明の隣に置き、借りやすくした。田舎では車無き生活は深刻で大変感謝された。また、緊急災害支援の団体とは、行政の支援が及ばない地域の拠り所の寺社、自らも被災しながら支援活動にあたるボランティアやラフティング団体への支援につなげた。

さらに、雇用や副業により被災地や都市部の人材と事業所をマッチングする団体とは、今も協働で課題解決にあたっている。

地方創生で培ったつなぐ力

これには災害前から地方創生に取り組む中で、関係人口の創出や人材育成、新産業創出に取り組んできた公民連携の経験知も活かされた。連携先は、市が設置したコワーキングスペースや熱中小学校というリカレント教育を運営している地元の団体で、行政だけでもできない「のりしろ」のフィールドで、我々とともに前述の団体とも連携し合い、重層的な支援を可能にしてきたのである。

「フォルダ型」から「ハッシュタグ型」人材へ

世界最高齢プログラマーの若宮正子氏は言う。「フォルダ内に閉じこもっていては急に外と触れてもどうしてよいかわからない。しかし、『#（ハッシュタグ）』を付す個人であれば互いの関係を生かして情報の出入口がつくりやすく、色々な角度で物事を見ることができれば、考え方も柔軟になる」と。

組織も地域も、多様な立場を表す「#（ハッシュタグ）」を沢山つけた人材を持つことで、自律分散型のつながりから新しいチャンスを生み出す余白（のりしろ）を増やしていくことができる。先の見えない時代。突発する危機に備え「ハッシュタグ型人材」は今よりもっと必要となるはずだ。

governance12-064 64 2021/11/08 11:57